

## 平成 29 年度第 2 回岩手県地方独立行政法人評価委員会 結果概要

I. 日時 平成 29 年 8 月 9 日（水）14：30～15：50

II. 場所 いわて県民情報交流センター アイーナ 7 階 アイーナキャンパス学習室 1 抜粋

### III. 参集者

- 1 岩手県地方独立行政法人評価委員会  
西崎滋委員長、室井麗子委員、下田栄行委員、恒川かおり委員、工藤昌代委員、関内隆専門委員
- 2 岩手県立大学  
石堂淳副学長兼企画本部長ほか県立大学事務局職員
- 3 事務局（県総務部総務室）  
総務部 佐藤法之特命参事兼管理課長ほか総務室・人事課職員

### IV. 会議要旨

【西崎委員長】委員の皆さん方には 7 月 19 日にヒアリングを行って以降、意見書回答にご対応いただきまして、どうもありがとうございます。なお、この評価は、評価を通じて法人のよりよい業務運営を支援するというで行っておりまして、この評価が平成 28 年度の業務実績だけではなくて、第二期の目標期間の業務実績評価に当たります。これは県民の目線から見ると、忌憚のないご意見を寄せていただいて、県民の目線での評価になりますようにご協力いただければと思っております。

まず、本日の会議の公開の取扱いについて、お諮りをします。

「審議会等の会議の公開に関する指針」に基づき、本日の会議の内容は、公開で進めさせていただく事を御提案したいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

【一同】（異議なし）

【西崎委員長】では、公開として進めさせていただきます。

### 議題 1 平成 28 事業年公立学校法人岩手県立大学の業務の実績に関する評価について

（項目別評価（案）について佐藤特命参事兼管理課長説明）

【西崎委員長】 4 のところでちょっとお聞きしたいのですけれども、私が B 評価にしたということもあるのですが、リメディアル教育の具体的な取り組み案をまとめるという年度計画でしたね。それに対して、そこまで進めなくて、具体的な取り組み案を取りまとめられるよう、要するに意見交換した結果を整理したという、具体的にはどこまで進んでいたのですかね。前回のヒアリングのときの資料の 11 ページに年度計画と計画の進行状況ということで報告いただいているのですけれども、年度計画の 3 番目のところに各学部教育におけるリメディアル教育の課題と今後の対応方針を整理し、具体的な取り組み案を取りまとめるという計画に対して、進行状況が各学部におけるリメディアル教育に係るアンケート調査を実施し、調査結果を整理した。また、高等教育推進タスクフォースにおいて、リメディアル教育の今後の

方向性等について意見交換、検討等を行い、具体的な取り組み案を取りまとめられるよう、内容を整理したという段階だったのですけれども。

【石堂副学長】 リメディアル教育の必要性というのが学部によって異なる部分がございますので、まず各学部での必要性なんかを含めての調査といたしますか、そういったことを全学のほうで調査して、それを整理したというのが前段だと思います。

そして、その意味で、高等教育推進タスクフォースといたしますのは、言ってみれば普通の大学で言いますと全学教務委員会のような形の組織で、そのところで、言ってみればこの調査結果等をまとめて多分意見の集約と、それから共有化というのを図ったというところで、そこまで、整理したところまでだという内容だと思います。一部の学部で先行して、もうリメディアル教育をやっているところもございますので、そういったものに続けて取り組みに入るという学部もあるようですので、このところが一斉に全学部でというよりは、学部ごと段階的にということだと思いますので、そのあたりが全学一致して同時にという形にはならないので、こういう表現になっているのかなと。

【西崎委員長】 わかりました。そうしたら、ほかの委員の先生方のA評価ということもありますので、一応A評価ということで進めさせていただきます。

それから、さっき話題になりました6番目のところなのですけれども、これちょうど3、3で意見の分かれたところではあったのですけれども、AA評価に評価された先生が3名、それからA評価のままの委員の先生が3名ということでした。

これももう変えようがないですか。いろいろ多様な取り組みがあったということは認められるのですけれども、なかなか成果までは至っていないということですかね、そういうことですね。

それから、ちょっともう一つ気になったのは7番のところなのですが、7番のところの年度計画が中長期的なカリキュラム体系の検討に向け、全体的な課題を精査するというあれだったのですが、進行状況を見ると、平成23年度以降の当該調査というのはアンケート調査ですね、授業に関する学生アンケート調査の結果の推移について整理したのにとどまったのかなという感じがしたのですけれども、カリキュラム体系の検討というところに関係して何か進展状況等を教えていただければ。

【石堂副学長】 現在引き続きポリシーの見直しとあわせて専門教育、基盤教育のあり方、連携した学士課程教育としてのあり方という観点で、現在引き続き検討が進められておりまして、28年度時点では中長期的な課題というか、基盤教育と専門教育の連携という部分が課題といえば課題なのですけれども、ではそれをどういうふうに改善していくのかということについては、引き続き検討という時点でとどまっているという状況でございます。

【西崎委員長】 それから、19の評価は、これはちょうど半々に分かれたわけですが、計画を越えて何か成果があったかというのを見たときに、私はAA評価したのですけれども、最後のところで希望郷いわて大会に学生ボランティアとして派遣し、当大会の運営を支援すると。そういう計画だったのですけれども、実際に進行状況を見ると86人の学生がボランティアに参加したと、また大会観戦者を支援するスマートフォンアプリを学生グループが開発、提供し、大会の盛り上げに貢献したと。この最後のところが少し計画以上の成果ということで評価しましたけれども、なかなか小さ過ぎますかね。

【関内委員】 私はこの19番については、全体的には県立大学は非常によくやっているのもともと評価しているのですけれども、ただそんなに新しいのがないかなという感じで、私はAにして、コメントはなかなか書きづらいので、コメント書かなかったのです。それで、ただこれ全体として見て、恒川委員と工藤委員という地域を代表されている方が評価しているので、私のほうは変更するというだけでも全然構いません、このところは。ちょっとなかなか判定がしにくかったということがありますので

【西崎委員長】 そうすると、関内委員はAA評価に格上げということで、全体の評価もAA評価ということで。

【関内委員】 ええ、工藤委員の項目というのもそのとおりかなというふうに思いますので。

【下田委員】 この評価はAA評価に格上げするということで。

あとは20番のところは、5名の委員の先生方がAA評価ということでいいですね。

25もそうですね、25もAA評価ですね。

それから、続いて34のところは、これも4名の委員の方がAA評価ということで、AA評価と。

それから、39のところは、これはちょうど半々に分かれたところでございます。FD・SDプログラムへの参加者が一昨年に比べて大きくふえていたということで、私は高く評価したのですけれども、3人の先生方はそれほどでもない。正直言って教員を集めるというのは大変ですよ、関内先生、これ本当に。

【工藤委員】 私はどう評価していいのかというのが明確ではなかったもので、そういうところであればAAにして……

【西崎委員長】 最近FDとかに参加するようにいろいろ大学からも言われている面もあるのですけれども、なかなか特別な取り組みをしないと80%、90%ぐらい参加するというのは難しいと思いますね。これはかなり、こう言ったらなんですけれども、本気で取り組まれている気が私なんかはしましたけれども。

【石堂副学長】 COC+の関係もございすけれども、あとそれ以前から、本学の場合ですとよくこれ今回の第二期でもそうですけれども、FDというものとSDというのを分けて項目上げて、これまでもFD、要するに教員側の能力開発というのですか、能力向上と、それからSD、いわゆる事務方というのを分けてやるのが一般的でしたけれども、教職協働と言っているように、大学というのは教員と職員が一体的に教育といいますか、運営して初めて教育効果とか研究の効果が上がるという観点もございましたので、こういったFD・SDというのは、もちろんFDだけのもの、SDだけのものもやっているのですが、さらにFD・SDを一緒にやるという、そういう活動もここ数年やってきておりますので、そういった点でかなり力が入っているのかなという気がしている……

【西崎委員長】 なかなかFDの成果とか、SDの成果というのは見えにくいのですが、一定以上の教職員の参加されて、そういうところで一緒に同じ方向を向いて物事を進めるというのは重要なことかなという気はします。

【工藤委員】 AA評価でもよろしいかと思えます。

【西崎委員長】 そうしたら39の項目もAA評価のほうに上げさせていただきます。

それから、42番のこの項目ですけれども、これは最初の年度計画の段階では、これは基金

のことなのですからけれども、新たな基金を創設し、大学への寄付金を募集、受け入れる体制を整備するというところで、これは募集をすることまで念頭に置いていたのか、体制を整備するところまでを計画にされていたのかというのがちょっと読みにくいのですけれども、私自身はまずは体制を整備するというところで進められていて、実際に基金を集めて集まると、そういうふうに判断したのですけれども、その辺は本当のところはどうだったのですか。

【石堂副学長】 体制整備というのは、やはりそういった基金をつくと、そういった受け皿を開設するというところまでの計画だったというふうに思っておりますけれども、実際に行ったところ、かなり協力的な基金が集まったということで、ここでは多分当初想定していた以上にそういった理解が集まったというところで、ここに上げさせていただいたというものでございます。

【西崎委員長】 このところは委員の先生方の判断にお任せしたいと思いますが、このところはA評価のままということよろしいですか。

あとちょっと気になるのはB評価のところなのですからけれども、幾つかB評価のところがあったかと思いますが、最初の1番の大学院のここについては来年度、新年度になってから取り組んでいただくということでした。

それから、15のところですね、県内外の高等教育機関とは連携事業に積極的に参画するというのですが、具体的な年度計画は15番でしたから……。単位互換について参加するための仕組みを構築するとなっていたのだけれども、諦めたという感じに読み取れたのですけれども、そうではなかったですかね。

【石堂副学長】 若干そのように読み取られてもやむを得ないかなという部分はございます。実際に県立大学の内部的には単位は取れるような、そういう仕組みはできているのですが、さらにコンソーシアムということで、他大学との連携の中で単位互換ということでしたが、大きなのは地理的な要因、そういったこともあって、1つの科目の単位を取るために半日から1日つぶさなければいけない、移動を考えますと。というようなこともあってだと思いますけれども、それとあとは大学間での時間割の時間のずれとか、そういったものがなかなか難しいというのもあるのではなかろうかと思いますが、どうも短期大学部、4年制大学と単位互換というのは難しかったのかなというところです。

【西崎委員長】 ただ、希望者が少なくても、希望した学生が取れるというのと、そういう窓が開いていないというのはちょっと別な問題だと思うので、そういう窓口を広げていくという意味では、そういう制度をつくっておくということは必要かなという気がするのですけれども、どのくらいの学生がそれを実際に利用して単位互換の制度で受講するかどうかというのはわかりませんが、希望が出たときに応えられるような体制をつくっておくことは必要ではないでしょうか。それがちょっと気になったところですね、B評価のところ。

あとは研究成果の評価云々のところがありました、26番のところですね。これは引き続き努力いただくということで。

あと38番はどういうあれですかね、そうか、そうか、女性活躍推進法に基づく女性の管理職登用の検討のため、女性のキャリア意識に関する調査及び分析を行うという、そういう課題に対して、課題の整理や調査の実施及び分析には至らなかったという、そういうことですね。県立大学は、看護とか、福祉だという女性の学生も多いと思いますので、その辺、先生

もちろん多いと思いますので、少し今後検討していただければと思います。

【石堂副学長】 その点につきましては、特に男女共同参画に関しましては第二期では、このように項目として起きているわけではないのですけれども、第三期のほうではもう項目として男女共同参画に関する措置ということで、そういった計画を立てていますので、項目を起こした分、三期のほうではもう少し明確な形で力を入れていくということにしております。

【西崎委員長】 その他何か個別の評価につきまして、項目別の評価につきましてご意見、ご質問等ございませんでしょうか。

【一同】 (異議なし)

【西崎委員長】 それでは、先ほどの事務局のほうからの提案ございましたけれども、19 の課題をA評価からAA評価に格上げする、それから……39 ですね、これもAA評価とすると、そういうふうに改めさせていただいて、項目別評価のところは終了したいと思います。

続きまして、全体評価のところですね、事務局のほうから全体評価のご説明お願いいたします。

(全体評価 (案) について佐藤特命参事兼管理課長説明)

【西崎委員長】 ただいまの事務局のほうからのご説明につきましてご質問、ご意見ございましたらお願いいたします。よろしいですか。

【一同】 (異議なし)

【西崎委員長】 それでは、事務局案のとおりとして、この議論を終えたいと思います。

## 議題2 公立大学法人岩手県立大学に係る第二期中期目標期間の業務実績に関する評価 (案) について

(佐藤特命参事兼管理課長説明)

【西崎委員長】 目標別評価のところですね、教育からそれぞれ少し見ていきたいと思います。今回の評価は、A評価は目標を達成した、B評価は目標を8割から10割未満達成したということですね。C評価は6割以上8割未満、D評価は目標8割未満で未達成であると、こういう評価基準でございますが、5ページから13ページまでですか、これが教育の中期目標に関する達成状況です。そこの5ページのところにありましたように、17項目中A評価が12、B評価が2、C評価が3ということなのですね。それで、教育の評価をAということですが、少し私は100%達成したかと言われると、それでいいのかなという気はしました。それで、B評価ということで、各委員の評価の結果調書があるかと思いますが、私と下田委員がB評価ということで、ほかの4名の委員の方がA評価ということなのですが、このところはどうか判断したらいいですかね、B評価が2、C評価が3つあったということは、それぞれの全ての項目が同じウエートというわけでもないのでしょうか。

はい、どうぞ。

【関内専門委員】 やっぱり問題なのは大学院の定員……

【西崎委員長】 うん、それが一番大きいところです。

【関内専門委員】 これ自体は、全国的に難しいということと、大学自体が問題の意識持ってい

て、次の期間に抜本的な改革みたいなのをやっていくというふうな動きがあるので、それ自体を否定的に捉えなくてもいいかなという意味で、私はもうA……

【西崎委員長】 もちろんそうです。もちろんそうなのですが、将来的にはそうなのですが、目標を達成したかどうかという判断ですね。

【関内委員】 なるほどね、達成をしていないと。

【室井委員】 基本的に、ネックになっているのは大学院。ただ、とはいえ学部教育に関してはかなり頑張っているしやるなど。大学院はおっしゃったようにここだけではなくて、もう日本全国的な問題なので、今後に期待ということでAとしたのですけれども。

【関内専門委員】 先生言われたとおりで、評価委員会の評価の文言のところで何々する必要があるというのだとちょっと否定的になるので、そのところを少し手直ししてA評価のまま、理由づけにしたらいいのではないのでしょうか、予定している改革ですか。

【西崎委員長】 そうですね、次期に予定している、うん。

【関内専門委員】 A評価の根拠として、評価のところに、確かにちょっと否定的なことが入っていますので。

【西崎委員長】 そうですね、だから大学院の定員充足については、全国的に難しい状況なり、第三期の目標の達成を期待したいとか、そういうふうにして、何か理由がないとC、Bという項目の評価をしておいてという気がしますので、ちょっと文言はお任せいただけますか。ということで、教育の部分はA評価ということでオーケーということですね。

それから、次の研究の部分ですが、ここは2項目ともA評価ということで、これはA評価のままです。評価の文言、ここに書いてある文言はそれぞれ委員の先生方に評価された内容をまとめたということですので、研究の部分はこれでよろしいですね。

それから、地域貢献、国際交流の部分ですが、これは4項目あって、双方向の交流のところ少しB評価になっているということですが、全体的な評価の文言を見る限りにおいては、これはA評価でもいいかなという気がいたします。4分の1、B評価ということなのだけでも、B評価の中でも一部ですから、双方向の受け入れ部門が少ないということですから、よろしいですか、A評価のままです。

はい、どうぞ。

【関内委員】 直接関係するのではなくて、念のために聞きたいところがあるのですけれども、20ページです。20ページに課題として人事制度の適正化というのが上がっていますよね。それで、前回渡していただいた資料の中で教職員アンケートの結果について、ちょっとクエスチョンマークというか、不思議に思ったのは、ここにも書いてあるのですけれども、教職員のアンケートにおいて、頑張ってよい業務をやればちゃんと評価されるというのがふえていますけれども、半分に満たないのですよね。同じような感じで、昇格等々についての不公平感はないというのも50%までいっていないので、要するに否定的な回答がこれ出ているということは、何が問題になっているのか、もしよろしければ教えていただきたいのですけれども。

【石堂副学長】 教員業績評価のこちらのほうですと、この満足度が低いということもありまして、いろいろとヒアリングとか、ちょっと調査をやっているわけですが、一つには処遇に反映させるということで、本学の場合、ボーナスに反映して、やはりその割合というのは極め

て限られてしまっているということがあります。

【関内専門委員】 むしろちゃんともう少し反映してほしいというふうな意見が多いのですか。

【石堂副学長】 それとその際にどうしても、それこそ評価方法の問題なのでしょうけれども、どうしても人が固まってしまう。同じ人がということがあるので、そういったところをうまくどう評価するかという評価方法をもう一遍考え直さなければいけないのではないかというのが言われているところと、あとはそのフィードバックですね。どのような形で個々の教員に、要は自己評価をやっていただきまして、それを今度は2次評価という形で学部長とか管理職のほうで評価するという形で進めていっているものなのですからけれども、その際にやはりギャップがあって評価が上がる、下がるといった場合の本人のフィードバックの仕方ですね、そのあたりがもう少し工夫をしないと、結局評価が生きてこないといえますか、ではどこをどう頑張ればいいのかというのがわからないというのがあるので。

それとあとはどうしても大学の場合には、教員の仕事の面として、一番不満足の部分なのですからけれども、結局教育、研究、学内業務と地域貢献と4つ柱があるわけで、結局それを満遍なくやるのがいいのか、それとも私は多少教育とかここはあれだけでも、研究については秀でていて。そういう人を評価すべき評価なのか、それともアベレージで全てについてきちっとこなす人を評価すべきなのかというところがやはり評価される側とする側とのちょっとギャップが出てきているところがある。やっぱり人によっては、私はどうしても研究面を評価していただきたいのだとか。

【関内専門委員】 大学側としての、そういうふうな、例えば今お話あったとおりの4つの教育、研究、社会貢献とか、あと管理みたいなものをどういうふうに配分するかどうかという、何かポリシーみたいなものははっきりしているわけではないのですか。

【石堂副学長】 もちろん基本的には大学の評価ということですので、この4つは大学の教員としてのある意味では使命ですので。例えば若い方の場合は少し研究のほうにウエートを置いていただきたいとか、そういったこともありますので、そういう評価ウエートを変えてやっております。

【西崎委員長】 それは本人が変えられる、個人ではなくて、大学のほうから いるということなのですね。

【石堂副学長】 学部ごとに職員等でのウエートの変更というのは認めると。でないと、完全にこれ総体評価になってしまうので、さっき言った評価の高い方に処遇に反映させるということができなくなってしまうので、ある程度固定的な評価はしないといけない。やはりその辺のところの評価される側の満足度にどうしても響いてしまうと。

【関内専門委員】 ある意味で、これ現在進行中ということなのですか、そうしますとそういうコンセンサスというか、教職員のいろんなものを考えると。

【石堂副学長】 おっしゃるとおりで、結局そういうあたりを3年やったところで見直すというような形でやってきていましたけれども、通年やって見直しをやりながら、今年度変えて、29年度から、28年度に変えて、29年度から見直した制度をやっていくと。その上で、また調査の調査というのも変ですけども、やはりヒアリング等をやった上で、今度はどういったところに課題が残っているかをやってと、なかなか一気にということは難しいので、理解、浸透を図ると同時に、やっぱりなるべく評価を受ける側が満足のいくような評価にしなけ

ればいけないというところで、ちょっと試行錯誤しながらこういう進め方をやっております。結局評価のところでは数字的なもので順位のような形で出てきますけれども、その15%でも結局学部がございますので、学部ごとに大体15%という割り振りをした上で、その学部の上位15%の方に行くようにという形でございます。結局学部によっては、短大部のように所帯が小さいといいますか、人数が少ないところから、学生的にも多いソフトウェア情報学部のように教員数の多いところもございますので、やっぱりそのところで学部ごとの割合として考えていかないと。

【西崎委員長】 業務運営のほうに入ってしまったていますが、何かほかにこちらのほうの。

最後の財務のところでは何かございませぬか、財務自己点検評価、情報の提供、それからその他の業務、このところは全て評価項目別にもA評価ということで、全体の評価もAということですが。

【一同】 (異議なし)

【西崎委員長】 そうすると、特に大きく変更するところはないということで、先ほどは教育のところの表現を少し変えて、もう少し積極的な面が、明示が、課題があるという表現はやめてということでございますので、それはちょっと検討させていただくということで、それではこの第二期中期目標にかかわる業務の実績に関する評価報告書につきましては、ご承認いただけますか、先ほどの訂正も含めて。

【一同】 (異議なし)

【西崎委員長】 それでは、以上をもちまして、議事を終了させていただくこととなりますけれども、ご協力どうもありがとうございました。